

もの言う牧師のエッセー 第346話

「日大選手会見」

日本大学アメフト部による悪質な反則タックル問題は、行き過ぎた勝利至上主義や上意下達など、大学運動部の悪しき部分が露呈し、日本中が重苦しい空気に包まれた。が、相手の関学選手に怪我を負わせた日大の宮川泰介選手の真摯な記者会見に心を打たれ、重く垂れ込めた黒い雲の中に一条の光を見た人は多かったのではなかろうか。

産経新聞は「これほど悲痛な会見を見たことがない。『顔を出さない謝罪はない』と自ら語ってカメラの放列の前に立ち、深々と頭を下げた。質問者の目を真っすぐに見ながら、必死に言葉を選び続けた」と表現している。プレジデント・オンラインは「20歳の大学3年生とは思えないほど立派な会見。彼の言葉には説得力があった。」

「行為自体は許されることではないが、勇気を出して、真実を語ってくれたことに敬意を表したい。立派な態度だった」と語る関学大アメフト部の鳥内秀晃監督。被害選手の父、奥野康俊さんは日大を「絶対に許されないこと」と批判しつつ、宮川選手については「自分のしてしまったことを償い、再生していただきたい。勇気をもって真実を話してくれたことに感謝する」と述べた。

いっぽう、負傷した関学大の奥野耕世選手はその後3週間ぶりに試合に復帰し、「会見で『フットボールをする権利はない』と言ってたんですけど、それはまた違うと思うので、またフットボール選手として戻って、グラウンドで正々堂々と、ルール内で勝負できたらいいなと思います」と宮川選手へエールを送った。何と清々しい若者たちであろうか。 聖書には

「神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。

神よ。あなたは、それをさげすまれません。」 詩篇51篇17節、

とあるが、詠っているのは王でありながら取り返しのつかない過ちを犯したダビデである。神の前において、悔い改めは最も高潔な要素であり、赦しはゴスペルの真髄である。神に心から謝罪する者は誰でも赦される。

2018-7-27

